

国立研究開発法人国立がん研究センター理事会（平成 29 年度第 5 回）議事録

日 時：平成 29 年 8 月 25 日（金） 9：15～10：25

場 所：国立がん研究センター 管理棟 第 1 会議室

出席者：中釜斉理事長、門田守人理事、松本洋一郎理事、児玉安司理事、間野博行理事、
南砂理事、小野高史監事

欠席者：増田正志監事

I. 前回（平成 29 年度第 4 回）議事録の確認

- ・ 前回議事録について了承。
- ・ 議事録署名人を間野理事と小野監事に依頼。

II. 審議事項

- ・ なし

III. 報告事項

1. 新研究棟披露講演会

資料に沿って報告された。

2. がん罹患数・率の最新全国推計値（2013 年）

資料に沿って報告された。

主な意見等

- ・ 有病率についても公表を検討すべき。

3. ヤフー検索における優先表示

資料に沿って報告された。

主な意見等

- ・ がん情報サービスの下に表示される広告まで制限することは難しいが、対策としては前進。
- ・ 正しい情報の提供は、多くの患者が望んでいることなので、しっかり進めてほしい。

4. がんとの両立支援施策（伊藤忠商事株式会社）

資料に沿って報告された。

主な意見等

- ・伊藤忠商事株式会社からのプレスリリースの中で、「がんセンター」とされている部分は「国立がん研究センター」とはっきり記載される方が適切。
- ・がん検診や禁煙対策などは、NCCの職員を対象に徹底して行うべき。
- ・検診結果については、本人と会社との間で情報共有に関しセンシティブな問題があるので、取扱いに注意が必要。
- ・単に大企業だから実施するというだけでなく、NCCが実施することについて積極的な付加価値を設けることが重要。
- ・検診を受ける人の同意を得てデータを集めコホート研究に利用するなど、新しいモデルに展開できないか。

5. 希少がんの研究開発・ゲノム医療「MASTER KEY プロジェクト」開始

資料に沿って報告された。

6. 産学連携全国がんゲノムスクリーニング「SCRUM-Japan」第二期プロジェクト

資料に沿って報告された。

主な意見等

- ・改正個人情報保護法に適切に対応しておくことが重要。
- ・海外の情報管理法制等について、アメリカは問題ないと思われるが、EUの対応は注視していく必要がある。

7. 国立研究開発法人審議会高度専門医療研究評価部会

資料に沿って報告された。

8. 平成30年度政府予算概算要求（運営費交付金等）

資料に沿って報告された。

主な意見等

- ・電子カルテのデータを診療から研究へつなぐこと、それにAIを用いることなどは、重要な課題。

9. がん診療連携拠点病院等の指定要件に関するワーキンググループ等

資料に沿って報告された。

主な意見等

- ・がんゲノム医療に関し、拠点を中心とする方法だけでは、適切に集約できないおそれがあるので、全体をうまくシステム化し集約できるようにしてほしい。
- ・専門性が高い分野では、幅広く関係者を集めてもリテラシーの差が大きすぎてうまく議論できないことが多いので、今回のように、まず専門家のサブグループで案を作るのは良い方法ではないか。

10. 広報実績

資料に沿って報告された。

11. 7月分月次決算

資料に沿って報告された。